

中日経済・貿易協力の 新たなチャンスを共に掴もう



中華人民共和国駐日本国特命全権大使

孔 鉉佑



今年是中国成立70周年で、日本は令和時代に入り、それぞれの発展に伴って中日関係も歴史の新たなスタートラインに立っている。今年6月、習近平国家主席がG20大阪サミットの際に安倍晋三首相と会談し、双方は新しい時代に相応しい中日関係の構築について重要なコンセンサスを得て、今後の両国関係の発展に大きな弾みをつけ、また両国の経済・貿易分野の協力に重要な指針を与えた。

長期にわたり、経済・貿易分野の協力は中日関係の重要な一部分であり、両国関係の深化や発展の過程で不可欠な役割を果たした。経済面で高度に相互補完し、利害が深く絡み合う両国の協力の枠組みが形成されている。その過程で日本は改革・開放に積極的に関与して、中国の近代化に重要な貢献をし、また中国の発展から大きな利益を得た。両国関係が新しい時代に突き進む今日、中日の経済・貿易は、これまで以上に有利なチャンスに直面している。

第一は、中国の発展がもたらす規模のチャンス。今年上半年、国内外の情勢が比較的複雑な状況下で、中国経済は全体的に落ち着き、安定の中で前進する基調を維持して、6.3%の経済成長と、経済構造の持続的改善・調整が実現された。特にハイテク産業の投資が急増し、中国経済の新たな潜在力と成長エネルギーを蓄えつつある。今後中国はより高い水準の対外開放を促進し、より広い分野で外資の市場参入を拡大し、知的財産権保護の国際協力をより大きい度合いで強化し、商品とサービスの輸入をより大規模に増やす。それは中日の経済・貿易協力深化の強力な支えとなるだろう。

第二は、中日の実務協力の質向上と高度化がもたらす枠組みのチャンス。近年、両国の経済・貿易協力が多くの新たな成長ポイントが現れている。2017年及び2019年に開催された「一帯一路」国際協力サミットフォーラムに日本側が積極的に参加した。2018年の第1回中日第三国市場協力フォーラムで署名交換された協力覚書52

件のうち、既に約20件が実施され、日本企業が第1回中国国際輸入博覧会で60億ドル近い受注を獲得し、また中日イノベーション協力メカニズムの初会合も開かれたなど、いずれも中日経済・貿易協力の深化・発展の歩みに伴って、質向上・高度化による枠組み構築を実現し、両国の関係性がより高い水準へ突き進みつつあることを示している。私は、たえず現れている実務協力の新メカニズム、新プラットフォームは科学技術イノベーション、財政金融、省エネ・環境保護、医療・健康管理、高齢者介護、観光旅行など幅広い分野における両国の互惠協力で新たな大きな可能性を提供するものと信じている。

第三は、グローバル・ガバナンス・システムの変革を共にリードするチャンス。今日の世界は百年ぶりの大変化を迎えつつあり、不安定・不確実性が際立つと同時に、平等な関係、互惠・ウィンウィンの価値観は、逆転させようのない世界の大勢である。アジアは世界で最も活力と潜在力のある地域として、国際政治経済構造における地位が日増しに高まっている。世界第2、第3位のエコノミーと地域の重要な国である中日には、時代の要請に応え、深刻化する一国主義と保護主義の挑戦に共同で対処し、グローバル・ガバナンス・システムの変革を正しい方向へ推し進め、アジアひいては世界の発展と繁栄に然るべく貢献する責任があり、その能力もある。双方は地域の経済統合を積極的にリードし、手を携えて東アジア地域包括的経済連携(RCEP)協定の年内妥結を後押しし、中日韓自由貿易協定交渉を急ぎ、開放型の世界経済を共に築く過程で両国の繁栄・振興を実現すべきだ。

海外投融資情報財団に集まっておられる金融、製造業、エネルギー等の経済・貿易分野の有識者の皆さんには、手を携えて努力しチャンスを掴んで、各業界の協力強化を図り、中日の互惠・ウィンウィン関係の新局面を共に開き、新時代にふさわしい中日関係づくりに積極的に寄与されるよう希望する次第である。